



とちぎボランティア
NPOセンター

ぽ・ぽ・ら

平成 28 年度事業報告書

目 次

はじめに	
主な実施事業写真	1
I 平成 28 年度の重点事項への取組状況	2
II 具体的な事業	2
II-1 施設等管理業務	2
(1) 施設・設備等利用受付	
(2) 利用団体の登録業務	
(3) メールボックス及びロッカーの管理運営	
(4) 交流広場のレイアウト変更	
II-2 情報収集・提供等業務	3
(1) センター事業報告書・情報誌の発行	
(2) ホームページ・SNS の充実（データベース有効活用/ブログ、フェイスブック等活用）	
(3) メールマガジンの作成及び提供（隔週）	
(4) 分野別団体情報の収集提供	
(5) 社会貢献活動関連文献・資料の収集、分類、貸出	
(6) イベント・助成金等情報の収集・発信・整理（ホームページ）	
II-3 相談・コーディネート業務	4
(1) 運営スタッフによる相談・コーディネート	
(2) 専門家による相談コーディネート	
II-4 研修・調査研究業務	6
(1) NPO マネジメントセミナー（資料編 P14～15 参照）	
(2) ボランティア・NPO・協働講座（講師派遣等）	
(3) 若年層の社会参加を促進する方策（資料編 P16 参照）	
(4) NPO、企業、行政の協働に関する調査研究	
(5) コミュニティづくりに関する調査研究（資料編 P17 参照）	
(6) 運営スタッフの県内外研修	
II-5 交流・ネットワーク推進業務	10
(1) 中間支援センター連携推進会議・スタッフ研修・センター訪問	
(2) 中間支援センター未設置市町の支援	
(3) とちぎ協働推進研究会の開催	
(4) テーマ別 NPO ミニサロン（資料編 P18～20 参照）	
(5) 職員派遣	
(6) イベント等への参加による広報・宣伝活動（理解啓発促進イベント）	
II-6 その他	13
(1) 災害時対応のあり方検討	
＜資料編＞	
NPO マネジメントセミナー	14
若年層の社会参加を促進する方策	16
コミュニティづくりに関する調査研究	17
テーマ別 NPO ミニサロン	18

はじめに

本報告書は、栃木県による「とちぎボランティア NPO センター（愛称ぼ・ぽ・ら）」の管理運営事業を、とちぎ協働デザインリーグが受託し、実績報告を取りまとめたものです。

『共助社会に向けてくつなぐ・育てる・高める』をテーマに、県内における社会貢献活動について、「すそ野を広げる」、「厚みを増す」、「創造性を高める」の3つの側面で実現していくことを活動の目標に据え、ぼ・ぽ・らの基本的な機能を高めるべく取り組んだ内容について報告します。

「情報収集・提供等業務」では、センター事業報告書・情報誌、ホームページ、メールマガジン（ぼ・ぽ・ら通信）等を通じて、県内を中心とした情報の受発信を行った。

「相談・コーディネート業務」では、専門家による会計税務専門家相談会3回、NPO 会計基礎講座3回を開催した。NPO の会計担当者の悩みを共有し解決できる場として好評であり、今後もニーズに応じていく必要があると感じる。

「研修・調査研究業務」では、NPO マネジメントセミナーにおいて、新たに、クラウドファンディング活用をテーマにしたセミナーを実施した。新たな資金調達の方法として注目されており、当セミナーではワークショップを開催して参加者各自の事業に即した活用のポイントを研修した。NPO のためのマネジメント力強化プログラムは4回実施し、事業プラン作成、プレゼンテーション、助成金獲得と幅広い内容を取り上げることができた。

「交流・ネットワーク推進業務」では、中間支援センター連携推進会議・スタッフ研修として、責任者会議、スタッフ研修会、及び県内中間支援センター訪問（9市町）を行った。また、各中間支援センタースタッフとともに、前橋市市民活動支援センターMサポ、NPO・ボランティアサロンぐんま、及び足利市市民活動センターの視察訪問に参加した。

「とちぎ協働推進研究会」は3回開催した。当研究会は県内の経済団体、マスコミ、社会貢献活動団体、県内市町中間支援センターなど、異業種分野の方々が一堂に会するプラットフォームとして貴重な場であり、それ故に意義ある運営を心掛けねばならない。来年度から県の制度として立ち上がる地域協働推進員の方々にしかるべき活躍の場を提供すべく、協働推進研究会メンバーの方々に知恵をいただきたいと考えている。

なお、昨年度から開始した「NPO ミニサロン」を継続して実施した。この事業は、同じ活動テーマをもつ団体同士が気軽に集まれる場が欲しいというニーズに応えたもので、「農村と企業をつなぐ」、「農村の資源を活かすグリーン・ツーリズム」、「『こども食堂』から見える、こどもをめぐる環境」、「とちぎの歴史・文化を語り継ぐ」をテーマに、4回実施した。初めてぼ・ぽ・らに足を運んだ NPO や企業も現れるなど、有効な交流の場となっている。

とちぎボランティアNPOセンターが、県内の社会貢献活動を推進していく上で、ひとつの拠点としてその機能を十分に発揮できるよう、皆様方のご指導、ご支援のほどを今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成29年3月

とちぎ協働デザインリーグ
理事長 三橋 伸夫



NPO 会計基礎講座(Ⅱ-3)

NPO を立ち上げたばかりの団体や会計の初心者を対象に、会計に関する悩みの解消を目指す講座を開催しています。(全3回シリーズで実施)



NPO マネジメント強化プログラム(Ⅱ-4)

NPO が活動を継続し、ミッションを実現するために、マネジメント力を高めることを目的としています。事業プラン作成、プレゼンテーション、助成金の申請など、実践的な内容です。



講師派遣等(Ⅱ-4)

地域やNPO、行政等からの要請を受け、ボランティアやNPOについて理解を深めるための入門講座等に講師を派遣しています。



中間支援センタースタッフ研修等(Ⅱ-5)

県内中間支援センター間の情報共有、連携強化を図るため、現場で抱えている課題解決に向けての互いに学び合いより良い支援につなげることを目的としています。



テーマ別NPOミニサロン(Ⅱ-5)

地域の課題について共通するテーマのもと、県内NPO等が集い、交流及び意見交換を通じて、お互いに活動を高め合うことを目的としています。

I 平成 28 年度の重点事項への取組状況

(1) 県内中間支援センターへの支援、市町中間支援センター設置の促進

- ① 中間支援センター間の連携・協働、職員研修、情報提供
■ II-5 (1) 中間支援センター連携推進会議・スタッフ研修・センター訪問・・・P10
- ② 新設（予定）中間支援センターへの支援（検討段階からの支援含む）
■ II-5 (2) 中間支援センター未設置市町の支援・・・P11

(2) 多様な主体（団体も含む）間の連携・協力体制の強化

- ① NPO ボランティア団体、企業、経済団体、社会福祉協議会、コミュニティ等組織間の連携・協力体制の強化
- ② 各県域団体等と市町中間支援センターとの連携・協力体制の強化
■ II-5 (3) とちぎ協働推進研究会の開催・・・P11

(3) 社会貢献活動に係わる団体、人材の育成

- ① 団体をマネジメントする人材の育成
■ II-4 (1) NPO マネジメントセミナー・・・P6、14
■ II-4 (2) ボランティア・NPO・協働講座（講師派遣等）・・・P6
■ II-4 (3) 若者層の社会参加を促進する方策・・・P8、16
- ② 人材情報の関係機関相互での共有
■ II-5 (4) テーマ別 NPO ミニサロン・・・P12、18

(4) 社会貢献活動の全国動向に関する情報の収集・発信

- ① 参考事例及び先進事例、他県センター等の情報収集
■ II-4 (6) 運営スタッフの県内外研修・・・P9
- ② 収集情報の県内へのテーマ別発信
■ II-2 (1) ～ (6) センター事業報告書・情報誌、HP、SNS、メルマガ等・・・P3
■ II-5 (1) 中間支援センター連携推進会議・スタッフ研修・センター訪問・・・P10

II 具体的な事業

（ ）…前年度の件数 以下同様の表記

II-1 施設等管理業務

(1) 施設・設備等利用受付

- ▶ 来館者数： 18,910 名 (16,103)
- ▶ 研修室利用者数：5,717 名 (7,032)
- ▶ 研修室利用件数： 833 件 (897)
- ▶ 作業室利用件数： 181 件 (187)
- ▶ パソコン利用件数： 72 件 (48)

(2) 利用団体の登録業務

- ▶ センター利用登録団体：412 団体 (400)

(3) メールボックス及びロッカーの管理運営

7 月にメールボックス及びロッカー利用についての更新（継続、変更）確認を実施した。

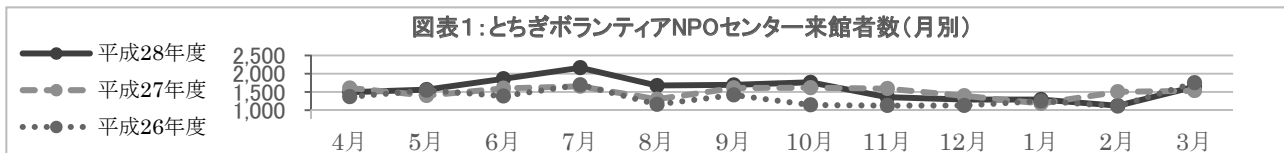
- ▶ メールボックス登録団体：28 団体 (28)
- ▶ ロッカー登録団体数： 52 団体 (53)

(4) 交流広場のレイアウト変更

環境整備によるイメージアップ及び利用促進のため、平成 28 年 5 月に 2 階交流広場のレイアウト変更を行った。広場が明るい空間となり、グループの会合がしやすく、利用者から好評を得ている。



■平成 28 年度センター利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度	1,492	1,562	1,859	2,163	1,674	1,692	1,762	1,356	1,290	1,290	1,125	1,645	18,910
平成 27 年度	1,370	1,547	1,389	1,696	1,161	1,418	1,146	1,129	1,131	1,254	1,112	1,750	16,103
平成 26 年度	1,608	1,403	1,601	1,654	1,301	1,611	1,618	1,592	1,395	1,187	1,505	1,537	18,012

II-2 情報収集・提供等業務

他県の先進事例等を収集し、ホームページやメルマガで発信を行うほか、ブログや SNS を活用し、タイムリーな情報発信の充実を図った。

(1) センター事業報告書・情報誌の発行

発行頻度：年 1 回、体裁：A4 一部カラー20 ページ、発行部数：300 部、
主な配布先：県内外中間支援センター、市町 NPO 担当課、関係団体など

(2) ホームページ・SNS の充実（データベース有効活用/ブログ、フェイスブック等活用）

ホームページや SNS を活用し、災害関連情報、各団体イベント情報、助成金情報など、より新しい情報発信に努めた。また、利用者の利便性向上のため、ホームページの一部改修を行った。

- ▶ ホームページ閲覧数： 27,571 件 (36,463)
- ▶ データベース登録団体数：577 団体 (560)
- ▶ データベース個人登録数： 9 人 (9)
- ▶ ブログ：投稿件数：51 件、訪問者数 5,679 人、ページビュー数 62,650 人
- ▶ フェイスブック：投稿件数 55 件、「いいね」409 人、リーチ数 14,337 人

(3) メールマガジンの作成及び提供（隔週）

ボランティア・NPO など、社会貢献活動についての理解促進と活動参加へのきっかけづくりを行うため、メールマガジン「ぽ・ぼ・ら通信」を月 2 回配信し、県内外のイベント情報や国・県の話、各種助成金情報等を広く多くの方に提供した。(No.324～No.348)。

- ▶ 登録者数：1,284 名 (1,270)

(4) 分野別団体情報の収集提供

新聞に掲載されている、栃木県内の社会貢献活動団体についての記事を分野別に収集し、他の団体情報や NPO 法人定款・事業報告と合わせて配架することで、栃木県内のボランティアや NPO の情報提供の充実を図った。

(5) 社会貢献活動関連文献・資料の収集、分類、貸出

- ▶ 所 蔵 図 書：1,687 点 (1,660)
- ▶ 新規図書購入： 27 点 (12)
- ▶ 寄 贈 図 書： 0 点 (13)
- ▶ 貸 出 件 数： 8 件 (10)

(6) イベント・助成金等情報の収集・発信・整理（ホームページ）

- ▶ イベント情報掲載件数： 543 件 (802)
- ▶ ボランティア情報掲載件数： 13 件 (28)
- ▶ 助成金情報掲載件数： 102 件 (99)

II-3 相談・コーディネート業務

運営スタッフ・専門家による相談・コーディネートの充実を図った。

(1) 運営スタッフによる相談・コーディネート

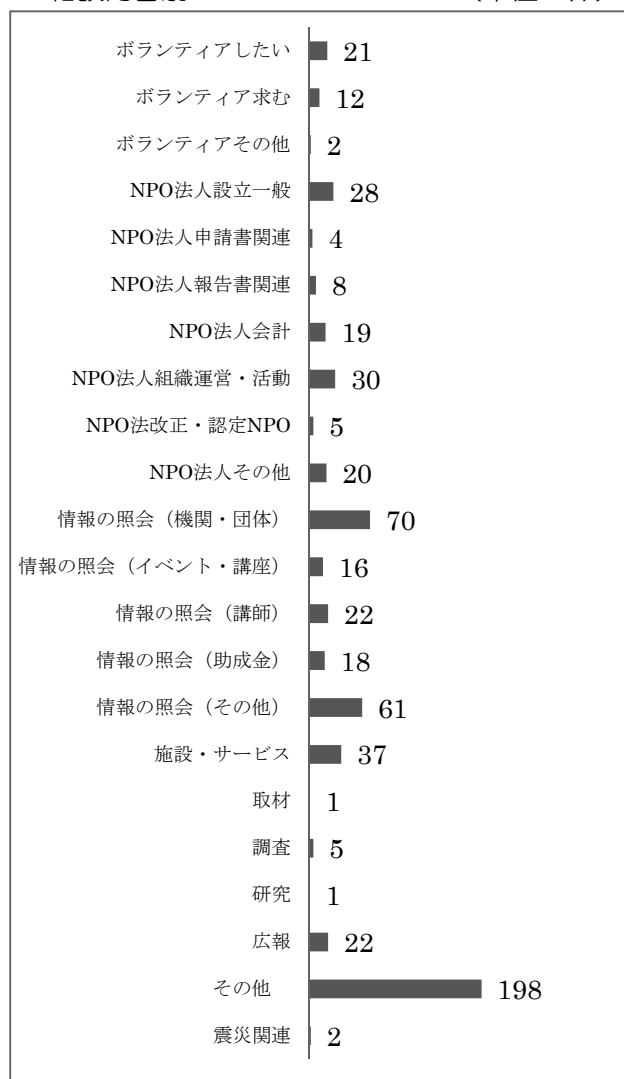
相談対応のための情報の収集・整理を進め、スタッフの対応能力向上に努めた。また、個人情報の保護については細心の注意を払っている。

▶ 相談件数：559 件（497）

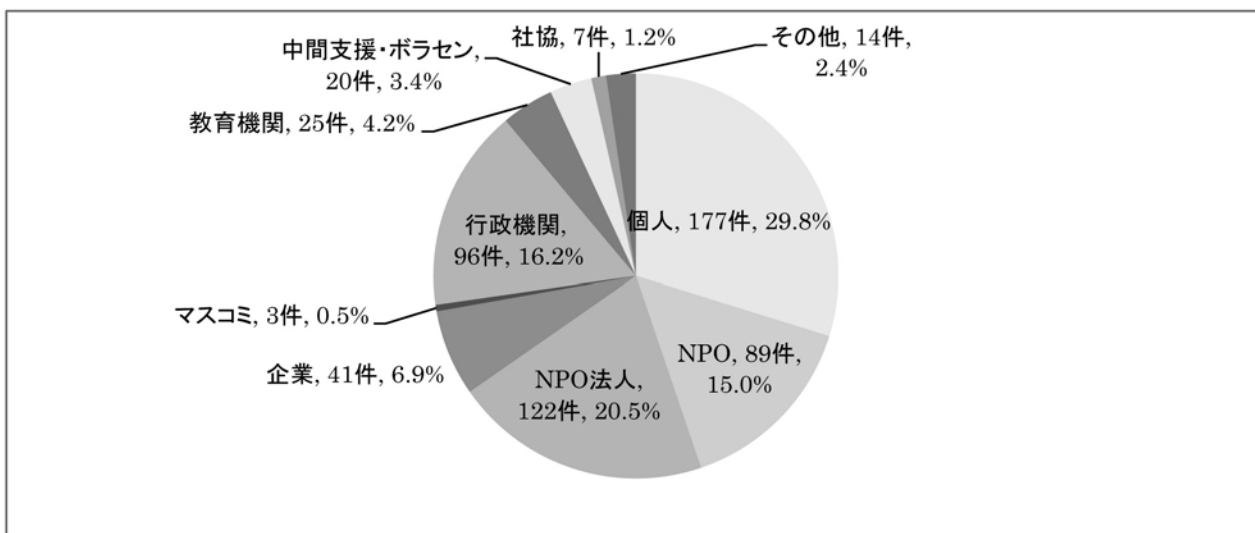
■平成28年度相談居住地域別 (単位：件)



■相談内容別 (単位：件)



■平成 28 年度相談者所属別



(2) 専門家による相談コーディネート

①【会計税務専門家相談会】

趣旨：多くの法人が会計、税務、労務等の事務処理に疑問や不安を抱えていることから、これらを支援するため、関東信越税理士会栃木県支部連合会公益活動対策部の協力のもと、会計税務相談を実施する。

【第1回】

日時：平成 28 年 5 月 11 日（水）13:30～16:15

協力税理士：小口秀一氏

参加団体：なし

【第2回】

日時：平成 28 年 9 月 14 日（水）13:30～16:15

協力税理士：牧野安浩氏

参加団体：4 団体（NPO 法人：4）

【第3回】

日時：平成 28 年 12 月 7 日（水）13:30～16:15

協力税理士：遠藤一則氏

参加団体：3 団体（NPO 法人：3）

②【NPO 会計基礎講座～簿記から始める会計～】

趣旨：NPO の会計に関する悩みの解消を目指すことを目的に、NPO を立ち上げたばかりの団体や会計初心者を対象に、会計の基礎となる簿記から学ぶ講座を開催する。

会場：ぽ・ぽ・ら

講師：安納宏和氏（税理士／とちぎ協働デザインリーグ監事）

【第1回】会計の基礎、簿記から学ぶ

日時：平成 28 年 8 月 4 日（木） 10:00～12:00

内容：会計の目的、現預金の管理、会費・寄付・補助金など

参加者：36名

【第2回】勘定科目、事業費と管理費

日時：平成 28 年 8 月 18 日（木） 10:00～12:00

内容：人件費とその他の経費、労務に関わる会計

参加者：37名



【第3回】決算、活動計算書に挑戦

日時：平成 28 年 9 月 1 日（木） 10:00～12:00

内容：貸借対照表、活動計算書を作成してみる

参加者：30 名

③ 成果と課題

NPO の場合全くの初心者が会計担当になる場合が多く、初歩の会計基礎講座は貴重でニーズの高いことが伺われた。「もっと時間が欲しい」、「次回も是非参加したい」との声が多く聞かれた。

相談会での内容は、税金や労務に関すること、会計処理全般についてなど、多岐にわたっていた。また、会計担当者の悩みを共有し解決できる場として、講座開催を求める声が多く寄せられた。今後とも相談会と講座を継続的に実施することで専門家に相談できる場をつくり、ニーズに伝えていく必要がある。

II-4 研修・調査研究業務

大学や他団体等との協力体制を深め、ボランティアや NPO の組織力・財政力を強化するためのセミナー等を開催した。多様な主体間の協働方策について等、調査研究の成果をボランティアや NPO、中間支援センター等に還元することを重視し、意欲的に取り組んだ。

(1) NPO マネジメントセミナー（資料編 P14～15 参照）

趣旨：NPO の組織基盤を強化することを目的に、「NPO のマネジメント力」、「資金調達」等をテーマにマネジメントセミナーを実施する。

対象：NPO 等

① 【クラウドファンディング活用セミナー】

クラウドファンディングはNPOの新たな資金調達の方法として注目されており、NPOとの相性も良いといわれていることから、理解を促すことを目的に実施した。

② 【NPO のためのマネジメント強化プログラム】

企業や行政等多様な主体との協働により地域課題解決を図ることが求められる中で、NPO 側から協働の可能性を見せる提案力が重要となる。そこで、NPO 等の組織基盤を強化し提案力を高めることで、共感者を増やし、事業活動の持続的成長を図ることを目的に実施した。

【第 1 回】＜NPO のための戦略的事業プラン作成講座（導入編）＞

【第 2 回】＜NPO のための戦略的事業プラン作成講座（実践編）＞

【第 3 回】＜伝えるためのプレゼンテーション講座＞

【第 4 回】＜助成金にチャレンジセミナー＞

(2) ボランティア・NPO・協働講座（講師派遣等）

地域や NPO、行政、企業等からの要請を受け、世代別テーマ別社会貢献活動への理解促進・普及啓発を図るとともに、団体及び人材の育成を目的に講座・研修を実施した。

① 【宇都宮市生涯学習講座 ふれあい塾】

日時：平成 28 年 6 月 21 日（火）10:00～12:00

会場：宇都宮市東生涯学習センター

内容：参加型学習を知る・楽しむ

対象：宇都宮在住・在勤の成人（参加 60 名）

②【緑化ボランティア養成講座】

日時：平成 28 年 7 月 7 日（木）9:30～12:00
会場：宇都宮市東生涯学習センター
内容：ボランティア活動を楽しもう
対象：地域での緑化活動を希望する市民（参加 25 名）

③【総合型地域スポーツクラブマネージャー養成講座】

日時：平成 28 年 7 月 31 日（日）13:00～14:30
会場：栃木県総合教育センター
内容：NPO 法人格取得について
対象：○各市町村教育委員会より推薦された者
○各種団体等より推薦された者
○その他、県教育委員会が認めた者（参加 19 名）

④【学校ボランティア活動推進セミナー】

日時：平成 28 年 8 月 5 日（金）13:00～14:30
会場：栃木県総合教育センター
内容：学校支援ボランティア活動を支援する関係機関としての活動紹介
対象：○学校支援のコーディネート及び学校支援ボランティアに関わる者
○地域で子どもを育む活動の指導者
○子どもの育成に関係するボランティア・団体関係者
○県・市町の社会教育関係職員
○教職員（地域連携教員・学校支援ボランティア担当者 等）（参加 40 名）

⑤【シニアサポーター養成研修】栃木県高齢対策課との共催により実施

【第 1 回】※台風により中止

日時：平成 28 年 8 月 22 日（月）13:30～14:30
会場：県庁 6 階大会議室
内容：社会参加へのきっかけ、「ぽ・ぽ・ら」の紹介他

【第 2 回】

日時：平成 28 年 9 月 5 日（月）10:00～16:00
会場：県庁 6 階大会議室
内容：シニアサポーターとして、私たちにできること
対象：各市町より推薦された者（参加 30 名）

⑥【篠井地区まちづくり計画（地域ビジョン）策定に係る勉強会】

日時：平成 28 年 8 月 29 日（月）18:30～20:30
会場：篠井地区市民センター
内容：～篠井の未来を考えよう～ 今の篠井を知ろう！（篠井地域ビジョン策定に向けて）
対象：篠井地区在住・在勤の市民（参加 19 名）

⑦【上三川町人権研修】

日時：平成 28 年 9 月 28 日（水）13:30～15:00
会場：ぽ・ぽ・ら
内容：シニアの社会参加、自分たちができること
対象：上三川町東館南集会所関係者（参加 16 名）

⑧【みやシニア地域デビュー講座】

日時：平成 28 年 10 月 28 日（金）10:00～12:00

会場：宇都宮市総合福祉センター

内容：わたしの魅力 あなたの元気 みつけて みがいて かがやかす

対象：シニア世代 （参加 18名）

⑨【石橋町協働のまちづくり講座】

日時：平成 28 年 11 月 15 日（火）10:00～12:00

会場：ぽ・ぽ・ら

内容：協働のまちづくり→わたしたちの強みはなにか？

対象：石橋町公民館講座受講者他 （参加 10名）

⑩【地域を元気にする組織のカタチ～NPO 法人編～】

日時：平成 29 年 1 月 21 日（土）18:30～20:30

会場：篠井地区市民センター

内容：地域を元気にする組織のカタチ

対象：篠井地区在住・在勤の市民 （参加 18名）

⑪【緑化ボランティア交流・研修会】

日時：平成 29 年 1 月 27 日（金）9:30～13:00

会場：宇都宮市役所 14 階 14D会議室

内容：ひと花咲かすボランティア ―わたしの元気、地域の笑顔―

対象：緑化ボランティア （参加 40名）

⑫【シニアの社会参加に関する研修会】

日時：平成 29 年 1 月 28 日（土）10:00～12:00

会場：高根沢町改善センター 研修室

内容：シニアの社会参加

対象：高根沢町民 （参加 6名）

(3) 若年層の社会参加を促進する方策（資料編 P16 参照）

若年層の社会参加を促進する方策について研究し、コーディネート の要点として以下の諸点を成果として得た。

- ①若年層の社会参加の場設定に向けた地域社会側ニーズの的確な把握
- ②若年層を受け入れる地域社会側の主体との綿密な事前調整
- ③地域社会において既に活動する同年代の若年者との交流の場設定
- ④若年者の社会参加意欲をかき立てる魅力ある体験プログラム構築
- ⑤社会参加の成果を実感できる体験プログラム

(4) NPO、企業、行政の協働に関する調査研究

①株式会社花楽×ひゅーまにあ宇都宮

取材日：平成 28 年 8 月 20 日（土）、24 日（水）

内容：フラワーアレンジメント等を事業としている株式会社花楽と、精神障害者の就労支援を行っている「ひゅーまにあ宇都宮」が協働で花育講座を実施した。

②有限会社エスケー印刷×ドナルド・マクドナルド・ハウスとちぎ

取材日：平成 28 年 9 月 20 日（火）

内容：床外壁などのコーティング清掃をしている有限会社エスケー印刷が、自治医科大学附属病院患者の家族が安心して宿泊できる場所を提供している公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウスとちぎを訪問し、ハウス内のシンク等のコーティング清掃活動が無償で行った。



③成果と課題

①は企業同士がパートナーとなり、新しい実習の場を提供することで、障害者の就労支援に寄与している。②は、NPO 法人の活動に共感した企業が、本業を活かし労働力を提供している。実習の場（①）及び労働力（②）を提供した側にとっても社員教育という点でのメリットを確認できた。

(5) コミュニティづくりに関する調査研究（資料編 P17 参照）

①「地域づくり基調講演&ワークショップ」への参加

栃木県主催「地域づくり基調講演&ワークショップ」に参加し、全国的に有名な先駆的实践者、通称「やねだん」と呼ばれる鹿児島県鹿屋市柳谷地区の公民館長 豊重哲郎氏から、地域づくりの背景や想い、取組などを伺い、地域づくりにおける「リーダーシップ」について学んだ。

日時：平成 29 年 1 月 28 日（土）13:00～17:00

会場：とちぎ青少年センター

参加者：約 50 名

②「地域運営組織」に関する調査研究

総務省においては、「地域運営組織」の活動実態等について調査研究を行い、その報告書が平成 29 年 3 月に公表されたところである。コミュニティづくりと深く関連する「地域運営組織」に関する情報収集及び考察を行った。

(6) 運営スタッフの県内外研修

運営スタッフの資質向上を図るため、業務に関連する県内外の各種研修を受講した。

期 日	研修先<用務先>	主 催	受講人数 (名)
28/5/25	栃木県コミュニティ協会研修会	栃木県コミュニティ協会	2
6/7	CANPAN NPO フォーラム	CANPAN	2
6/25	ボランティアコーディネーション研修(3級)	日本ボランティアコーディネーター協会	1
6/29	生活学校全国大会	(公財)あしたの日本を創る協会	1
7/6	自治体職員向け理解促進講座	栃木県	4
8/5	学校ボランティア活動推進セミナー	栃木県	1
8/29	篠井地区市民センター講座	篠井地区ゆたかなまちづくり協議会	1
9/6	準認定ファンドレイザー必修研修	日本ファンドレイジング協会	1
9/27	NPO 法改正説明会	栃木県	3
11/12.13	避難所生活体験プログラム	栃木県	1
12/4	ボランティアコーディネーション研修(3級)	日本ボランティアコーディネーター協会	2
12/16	関東 EPO パートナースミーティング	関東地方環境パートナーシップオフィス	1
29/1/28	地域づくり基調講演&ワークショップ	栃木県	2
2/7	CANPAN NPO フォーラム	CANPAN	2
2/10	防災・減災を考えるシンポジウム	(株)下野新聞社	1
2/14	災害ボランティアコーディネーター養成研修	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会	1

II-5 交流・ネットワーク推進業務

県域センターとしての「ぽ・ぽ・ら」の機能強化を図るため、県内中間支援センターの連携を図る研修会等を実施するほか、中間支援センター訪問、「とちぎ協働推進研究会」等の機会を通じて、県域団体や中間支援センター等との交流を図り、関係を強化した。

(1) 中間支援センター連携推進会議・スタッフ研修・センター訪問

①【第1回責任者会議】

趣旨：県内中間支援センター間の情報共有、連携強化を図ることを目的に、現場で抱えている課題解決に向けての実務者の会議として、責任者会議を開催する。

日時：平成28年6月3日（金）15:30～17:00

会場：ぽ・ぽ・ら

参加者：各中間支援センター等 15名

内容：・平成27年度中間支援センター連携推進会議活動報告

- ・平成28年度中間支援センター連携推進会議活動計画
- ・各センター及び県の今年度事業の概要、重点事項
- ・意見交換

成果と課題：「社会福祉協議会と中間支援センターとの役割の棲み分け」や「ボランティアの登録・活用、コーディネート」など、貴重な意見交換ができた。スタッフ間で忌憚なく意見交換することで、お互いの切磋琢磨にもなり、今後の連携協力に活かしていきたい。



②【スタッフ研修会「災害時における中間支援センターの連携について」】

趣旨：互いに学び合いより良い支援につなげることを目的に、スタッフ研修会を実施する。近年、全国各地で自然災害が頻発し、災害ボランティア活動についてのニーズや関心が高まっていることから、災害時における中間支援センターの連携について研修を実施する。

日時：平成28年10月28日（金）13:30～15:30

会場：ぽ・ぽ・ら

講師：君嶋福芳氏（さくら市総務部企画政策課長）

参加者：各中間支援センター、栃木県県民生活部県民文化課、危機管理課 計16名

内容：講義及び事例報告「熊本地震の支援について」、スタッフ間の意見交換

成果と課題：災害時のボランティア支援に関しては、既に協定を結んで対応している中間支援センターもあり、実際に災害が発生した際には、社会福祉協議会や自治会等との連携・役割分担により、対応していく体制を整えておく必要がある。

③【県内中間支援センター訪問】

趣旨：「ぽ・ぽ・ら」と県内中間支援センターとの連携を一層強化するため、「ぽ・ぽ・ら」職員が各センターを訪問し、現状及び課題、「ぽ・ぽ・ら」への要望等について意見交換を行う。

日時：平成29年2月～3月

訪問先：宇都宮市まちづくりセンター、かぬま市民活動広場、とちぎ市民活動推進センター、佐野市市民活動センター、足利市民活動センター、壬生町町民活動支援センター、真岡市市民活動推進センター、野木町ボランティア支援センター、小山市市民活動センター 計9ヶ所

成果と課題：各中間支援センターを訪問し、役職員との意見交換を通じて、各センターが抱える課題や優良事例等を把握することができ、顔の見える関係づくりに効果があった。結果を踏まえ、要望事項については今後の事業企画に活かすとともに、今後とも、県域センターとして、県内センター間の情報交換や連携強化に努めたい。

(2) 中間支援センター未設置市町の支援

①【中間支援センター現地視察】

栃木県主催「中間支援センター現地視察」に参加し、バス内で、とちぎボランティア NPO センターの概要説明を行った。

日時：平成 28 年 8 月 2 日（火）8:30～16:30

視察先：前橋市市民活動支援センターMサポ、NPO・ボランティアサロンぐんま、足利市民活動センター

参加者：各市町、各中間支援センター等 23 名

成果と課題：視察先の各センターは、複合施設、県庁内、単独施設と立地や形態が異なるが、それぞれ工夫して運営されている。今後、栃木県内の市がセンターを立ち上げる際にも、立地や形態は、センター事業に大きく影響を及ぼすと感じた。

②【那須塩原市からの視察受入れ】

那須塩原市からの視察を受け入れ、効果的な広報、「ぽ・ぽ・ら」の運営管理等について説明した後、意見交換、館内案内を行った。

日時：平成 28 年 8 月 3 日（水）13:00～14:30

来訪者：那須塩原市協働のまちづくり委員会広報部会委員 4 名、市職員 2 名 計 6 名

成果と課題：「ぽ・ぽ・ら」が実施している広報については、SNS の活用などにより工夫しており、参考になったとの感想を頂いた。那須塩原市では、コーディネーター養成に困難を感じているとのことであり、県域センターとして協力が必要と思う。

(3) とちぎ協働推進研究会の開催

趣旨：栃木県域の社会貢献活動を県民全体で支える方法を提案するとともに、ボランティア・NPO、企業、行政等、各セクター間の協働環境の整備に向けて、相互の透明性を高めるための方策を検討することを目的とする。

①【第 1 回とちぎ協働推進研究会】

日時：平成 28 年 6 月 3 日（金）13:30～15:00

参加者：14 名

内容：平成 27 年度「企業とNPO等との協働対話フォーラム」活動報告、研究会メンバー取組紹介及び自己紹介、平成 28 年度の活動について事務局案の提案及び研究会メンバーからの研究会の今後の活動について意見交換した。

成果と課題：今までの経緯を踏まえながら、今後の研究会のあり方を改めて検討していくことで一致した。



②【第 2 回とちぎ協働推進研究会】

日時：平成 28 年 9 月 9 日（金）16:30～18:00

参加者：12 名

内容：研究会の目的の見直し及び研究会メンバーの協働推進への関わりについての確認を行った。

成果と課題：研究会メンバーによる協働推進への具体的な関わり・期待について、情報を共有することができた。

③【第 3 回とちぎ協働推進研究会】

日時：平成 28 年 12 月 15 日（木）10:00～11:30

参加者：10 名

内容：研究会の活動方針（案）及び規約（案）等について、意見交換を行った。

成果と課題：活動方針（案）及び規約（案）の作成については、概ね賛同を得ることができたが、改めて全体の意見集約が必要である。

(4) テーマ別 NPO ミニサロン（資料編 P18～20 参照）

趣旨：共通するテーマのもとに、地域の課題解決に貢献している県内の NPO が集い、交流及び意見交換を通じて、お互いに高め合うことを目的とする。

- ①【第 1 回】＜農村と企業をつなぐ ～中山間地域の振興～＞
- ②【第 2 回】＜農村の資源を活かすグリーン・ツーリズム＞
- ③【第 3 回】＜「こども食堂」から見える、こどもをめぐる環境＞
- ④【第 4 回】＜とちぎの歴史・文化を語り継ぐ ～次世代へつなぐピースバス～＞

(5) 職員派遣

事業名	役 割	派遣人数 (名)
宇都宮市民大学運営協議会（全 2 回）	委員	2
栃木県住生活支援協議会		1
栃木県経済同友会助成事業審査、選考会、報告会		4
栃木県コミュニティ協会総会		1
栃木市助成審査、とちぎ夢ファール実績報告会	審査委員	3
栃木県社会貢献活動人材ネットワーク会議		1
JT NPO 助成事業成果発表会		1
栃木県社会貢献活動促進懇談会（全 2 回）		4
高校生まちづくりサミット		3
宇都宮市みんなでまちづくり会議	委員	1
NPO と行政とのテーマ別意見交換会（栃木県）（全 2 回）		2
宇都宮市まちづくりセンター貸しオフィス審査会、まちぴあオフィス報告会	審査委員	2
災害ボランティアネットワーク会議		1
花王ハートポケットクラブ助成事業審査、贈呈式・とちぎコミュニティ基金		2
宇都宮大学地域デザイン科学部ネットワーク会議		1
小山市市民活動センター運営調整会議		1
みやシニア活動センターネットワーク会議		1
HUB CAFE ミーティング in 宇都宮		1

(6) イベント等への参加による広報・宣伝活動（理解啓発促進イベント）

期 日	イベント名・展示内容	会 場
28/ 6/15	県民の日記念イベント	栃木県庁昭和館 4 階多目的室
11/12～18	市民活動支援センターパネル展示	栃木県庁 1 階県政展示コーナー
11/30	とちぎ協働推進大会	栃木県総合文化センター会議室



II-6 その他

(1) 災害時対応のあり方検討

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震及び 8 月の台風 10 号・16 号による大雨被害に関して、下記の対応を行うほか、災害時の中間支援センターの連携について、スタッフ間の意見交換を行った。

①熊本地震及び大雨被害に関する対応

- ア 相談対応（随時）
- イ 災害関連情報収集提供
センターHP、ブログ、フェイスブック、メルマガを活用した災害関連情報の発信
 - ・災害ボランティアセンター立上げ状況、ボランティア募集情報一覧の作成・提供
 - ・全国社会福祉協議会・栃木県社会福祉協議会からの災害情報を HP 等にて情報発信
 - ・義援金、活動支援金等の情報収集・提供
- ウ 熊本地震義援金募金箱の設置、熊本県への送金



- ・地震発生後から平成 29 年 3 月 31 日まで、センター 2 階受付に募金箱を設置して義援金を募った。
- ・平成 28 年 6 月 15 日の県民の日イベントブースにおいても、義援金募集を行った。
- ・集まった義援金を熊本県あて送金した。
(総額 44,450 円)

②災害時における中間支援センターの連携について

II-5 (1)②再掲

近年、全国各地で自然災害が頻発し、災害ボランティア活動についてのニーズや関心が高まっていることから、災害時における中間支援センターの連携について、スタッフ研修を実施した。

③避難所生活体験プログラムへの参加

日時：平成 28 年 11 月 12 日（土）～
13 日（日）

会場：宇都宮市立桜小学校

参加者：小学生家族を含む一般県民
約 30 名

内容：段ボールの仕切りやベッド、更衣室の組立など、避難所の設営方法、防災に関するクイズを交えた講話や防災ゲーム、防災グッズの製作、宿泊体験



成果と課題：体験プログラムとして毛布やストーブなど、様々な寒さ対策が取られた上での宿泊体験だったが、実際の避難時の過酷な状況を身をもって感じる事ができた。避難所は、市民による自主運営が基本であり、プログラムで学んだ内容を、万が一の場合の日頃の備えに活かしたい。

NPO マネジメントセミナー

NPO の組織基盤を強化することを目的に、NPO の「マネジメント力」、「資金調達」をテーマにマネジメントセミナーを実施した。特にマネジメント力を高めることは NPO や市民活動団体が活動を持続しミッションを実現するためにとっても大切である。今年度は、マネジメント力強化や企業との協働を視野に入れて、4 回にわたる連続講座を実施した。

1 クラウドファンディング活用セミナー

趣旨：クラウドファンディングはNPOの新たな資金調達の方法として注目されており、NPOとの相性も良いとされていることから、新たな資金調達の手法として理解を促す。

①日時・会場：7月8日（金）13:30～16:10（ぽ・ぽ・ら）

②講師：FAAVO宇都宮 高山直樹氏、奥山直和氏

③参加者：18名

④内容：NPOがクラウドファンディングを活用する際のメリット・デメリット、各クラウドファンディングサービスの比較、クラウドファンディングを活用したNPOの事例、PRの具体的な記述方法など。

⑤成果と課題：セミナーでは、NPOの新たな資金調達の形として具体的に説明を行った。クラウドファンディングは資金調達を主目的とするよりも、PRやプロモーション・市場調査を目的に取り組むことが大切である。ワークショップでは、プロモーションのポイントを考えてもらい、自分たちの活動を見直すきっかけにもつながった。



2 NPOのためのマネジメント強化プログラム

趣旨：企業や行政等多様な主体との協働により地域課題解決を図ることが求められる中で、その実現にはNPO側が協働の可能性を見せるための提案力を身につけることが重要となる。そこで、NPOの組織基盤を強化し提案力を高めることで、共感者を増やし、事業活動の持続的成長を図る。

【第1回：NPOのための戦略的事業プラン作成講座（導入編）】

①日時・会場：11月2日（水）13:30～16:30（ぽ・ぽ・ら）

②講師：（一社）みんなのとしょかん 川端秀明氏

③参加者：15名

④内容：NPOが、企業等との協働を視野に入れた戦略的な事業プランを作成することの意義やメリットについて学ぶ。日頃の事業活動を振り返り、事業を継続し発展させるために必要な戦略的な視点の必要性について理解を深める。

⑤成果と課題：セミナーでは、NPOが戦略的に事業を考えることの重要性を説明し、実際に事業プランの作成にもチャレンジしていただいた。ターゲットや事業の柱を見極め、誰にでも分かりやすい事業モデルを作り伝えることで共感者を増やすことが重要であることを学んだ。ビジネスモデルキャンパスを活用し、小さなことから着実に実行に移すことが成功につながる。日頃自分たちの活動を戦略的に捉える機会に乏しいNPOが、事業を戦略的に捉えることの重要性に気づき、実際に事業活動に活かせるものを見出せたことが成果であった。



【第2回：NPOのための戦略的事業プラン作成講座（実践編）】

①日時・会場：12月1日（木）10:00～16:00（ぽ・ぽ・ら）

②講師：（株）PubliCo 長浜 洋二氏

③参加者：17名

④内容：前回の講座を踏まえ、実際に事業プラン作成を行っていただき、事業の整理をしながら今後進むべき方向性を明らかにする。



- ⑤成果と課題：セミナーでは、ターゲット企業選定のポイントや、企業が提供できるものと団体が獲得したいもののマッチングの重要性、実践段階における取組のポイントなどを学んだ。また、成果をより具体的に描くこと、独自性を明確にすることの大切さを学んだ。マーケティングというと企業活動の概念のように捉えられがちであるが、実はNPOの活動にも非常に有効な考え方であることに気づいていた。企業に選ばれるNPOを目指すことをテーマに据えたことで、企業とNPOの協働への意識付けにも繋がったと推察できる。

【第3回：伝えるためのプレゼンテーション講座】

①日時・会場：1月11日（水）13:30～16:30（ぽ・ぽ・ら）

②講師：㈱下野新聞社 販売事業局教育文化事業部
部長代理 小林 達彦氏

③参加者：8名

④内容：自分たちの活動を伝えるコツを学び発信力を高める。企業等の多様な主体に対し、協働の可能性を見せる提案をすることで、選ばれるNPO等になることを目指す。

⑤成果と課題：セミナーでは、情報収集、取材、構成といった、新聞社ならではの工程の中で、相手に共感を与えるポイントを学んでいた。ワークショップでは、誰の立場で誰に発信するかで記事の内容が大きく変わることに気づき、多様な価値観やものの見方を知るきっかけになった。1分間スピーチにも取り組んでいただき、スピーチの改善点が明確になった。



【第4回：助成金にチャレンジセミナー】

①日時・会場：2月11日（土）13:30～16:30（ぽ・ぽ・ら）

②講師：独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部
地球環境基金課 鎌田 結花氏 西岡 玲子氏

③参加者：10名

④内容：助成金獲得の実践版として、今まで学んできたことを活かし、実際に助成金申請書作成にチャレンジする。申請書の作成を通じて自分達の活動を整理するとともに、助成先企業や団体から選ばれるNPO等になることで、活動の継続と発展の足がかりを掴む。

⑤成果と課題：セミナーでは、実際に要望書を記入していただいた。参加者はこれまでのセミナーでの学びを発揮しスムーズに記入していた。グループワークでは記入内容をお互いに発表することで、書き方の整理だけにとどまらず、お互いの活動内容を理解し、更なる発展へのヒントも得られた。助成団体に響く書き方を直接講師に聞いたことは、今後の助成申請に活きると思われる。



3 まとめ

マネジメント強化プログラムでは、平成29年1月に実施した「企業とNPO等との協働対話フォーラム」で成果を発揮していただくことを視野に入れて、4回の連続プログラムの中で、自分達の今後進むべき方向性を整理し、戦略的な事業プランの作成にチャレンジし、相手に共感を与えるPRの方法や、1分間スピーチの内容のまとめ方等を学んでいた。それらの学びを実際に「企業とNPO等との協働対話フォーラム」で活かしていただけた方もいらした。ぜひ、今後の事業活動に向け、この学びを1つでも2つでも活かして実行に移していただけることを期待する。

NPOの共通テーマである資金調達では、昨今注目度の高いクラウドファンディングを取り上げたが、決して簡単に資金調達できるものではないことなどを充分理解した上で、上手く活用していただくことが重要である。助成金申請については、助成団体に響く申請書の書き方などを直接助成団体側から聞いたことは非常に有意義であり、今後助成金申請に積極的に取り組むきっかけになることを期待する。

受講人数が相対的に少なく、集客方法の見直しが課題ではあるものの、一方で、講師と受講者の距離が縮まり、参加者間の交流もしやすく、結果的には適切な人数であったと思われる。

若年層の社会参加を促進する方策

1 趣 旨

少子・高齢化が急速に進むなかで、若者が、生活している地域に愛着をもち、地域の現状と課題に目を向け、自分たちに出来る社会貢献活動を見出し実践につなげていくことが求められている。若者と大人が共に地域の中で役割を見出し成長していく姿を目指し、若者の社会参加を促進する方策について検討する。

2 概 要

若年層の社会参加を促進する方策について、2つの事例分析を通じて検討を行った。事例の一つは社会福祉協議会が企画したもので、高校生ボランティアによる山間部地域での支援を行う活動である。二つはNPO 法人が企画実施したもので高校生を東日本大震災の被災地に派遣し現地でボランティアを行う活動である。

まず、前者の事例についてみる。高校生ボランティアは日光市内の今市高校福祉部、今市工業高校ボランティア部であり、相手側は旧栗山村川俣地区である。両者を取り持ったのは日光市社会福祉協議会であり、同会地域福祉戦略室長がコーディネーターの役割を果たした。高校に部活動はあるが、実際に地域で活動する高校生が少ないことを知り、地域に声をかけた。川俣地区は高齢化が進み、伝統的な祭りや行事の担い手が不足しており、当該地区の区長と話し合って受け入れ了解をとった。高校生たちは「NIKKO 高校生ボランティアネットワーク」を結成し、5月の「石焼き」、夏の天皇祭と夏祭りなどで地区を訪れる観光客のための安全対策、地区特産のソバの種まき、獣害対策のネット張りなどを行った。こうした貢献活動に報いようと、地区では室町時代から伝わる「元服式」を模した「心縁の儀」に高校生らを招き、甘酒で「固めの杯」を酌み交わした。高校生にとって新たな居場所が生まれ、地区では卒業後も地区に継続的に関わってもらうことを期待する。

ボランティアを受け入れる地域のニーズを的確に把握したこと、活動が地域住民に大変喜ばれたこと、高校生たちが活動を通じて受け入れ地域住民と交流したこと、マスコミを通じて活動が広く広報され、高校生、受け入れ地域双方にとって活動の励みとなったことなどがポイントと考えられる。

後者の例を検討する。「高校生の社会参加支援事業」と銘うった事業で、神奈川県藤沢市とNPOの協働事業提案制度に、藤沢市市民活動推進連絡会（認定NPO 法人）が応募し採択された。高校生が社会の一員として自立し、権利と義務の行使により、社会に積極的に関わろうとする態度などを身につけることを目的とする。平成28年度は17名が参加した。被災地の現状を調べ、プログラム内容を考える4回の事前研修、2泊3日の被災地研修（現地高校生との交流を含む）、経験したことを整理し報告したい内容を検討するとともに自ら報告会を企画する、その後の自主活動を企画する、というプログラムとなっている。他方、受け入れ側は被災地に新たにUターンして地域の課題の発見・解決に取り組む若手メンバーで構成されるNPO 法人wizで、事業の趣旨を理解し、都会の高校生たちにとって魅力的な受け入れプログラムを企画した。この例も、高校生側、ボランティア受け入れ側の各々の事情、ニーズを的確に把握し、プログラムを組み立てた。特に、高校生自らが実施前に研修プログラムを、実施後に報告会を各々企画する場に参画することで、主体意識の醸成に配慮している。また、被災地で活動する現地高校生と交流することは、参加した高校生に大きな刺激を与えたことも特筆される。新たな責任感、競争意識を育み意欲を喚起する優れたプログラムである。

3 成果と課題

以上より、若年層の社会参加を促進する方策について、特にコーディネート観点からの要点として、次の諸点を成果として得た。

- (1) 若年層の社会参加の場設定に向けた地域社会側ニーズの的確な把握。
- (2) 若年者を受け入れる地域社会側との綿密な事前調整。
- (3) 当該地域で既に活動する同年代若年層との交流の場設定。
- (4) 若年者の社会参加意欲をかき立てる魅力ある体験プログラム。
- (5) 社会参加の成果を実感できる事後省察を含む体験プログラム。

コミュニティづくりに関する調査研究

1 趣 旨

少子・超高齢社会において、地域のコミュニティ機能が低下し、生活や生産活動、共同活動等の継続が困難な状況が拡大する中、「地域経営型」自治への深化が求められている。そこで、自立するコミュニティづくりの参考とするため、栃木県主催「地域づくり基調講演&ワークショップ」に参加し、「行政に頼らないむらおこし」で全国的に有名な「やねだん」の地域づくりにおける「リーダーシップ」について学んだ。

また、平成29年3月に総務省がまとめた「暮らしを支える地域運営組織※に関する調査研究事業報告書」について、情報収集及び考察を行う。

※地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015版）」における「小さな拠点形成」の主な重要業績指標として、地域運営組織の形成数3,000団体を目指すとされている。（2014年度 全国で1,656団体）

2 概 要

(1) 栃木県主催「地域づくり基調講演&ワークショップ」の概要



鹿児島県鹿屋市の柳谷集落、通称「やねだん」。18年ほど前までは人口300人、65歳以上が4割という、過疎高齢化の集落だった。しかし、1人のリーダーを中心に集落の人々が立ち上がる。柳谷集落が目指したのは、「行政に頼らない地域創生」。集落総参加で労力や経験を提供し合い、土着菌を使った土作りやオリジナル焼酎づくりなど、独自の商品開発で自主財源を増やしたほか、住民の工夫で福祉や教育も充実させて

いった。18年前、豊重哲郎氏が公民館長に就任したのをきっかけに、「柳谷の住民は、一人一人が地域づくりの主役」を信念に、自立への種々の事業に取り組み、成果を挙げていった。その結果、自主財源はみるみる増え、全ての世帯にボーナスが配られるようになった。「やねだん」の画期的な取組は、地方創生のモデルとして全国に知られている。

(2) 総務省「暮らしを支える地域運営組織に関する調査研究事業報告書」の概要

ア 地域運営組織の活動実態

- ・活動範囲は「小学校区」（概ね昭和の大合併で消滅した旧村エリア）
- ・全国の1/4の市町村に1,600を超える組織があり、さらに8割を超える市町村が必要性を認識
- ・約7割が法人格を持たない任意団体で、残り約3割の大半がNPO法人
- ・主な活動内容は高齢者交流、声かけ・見守り、外出支援、配食支援、買物支援など幅広い
- ・主な収入源は市町村補助金、会費、利用料であり、財政基盤が脆弱
- ・地域の有志や組織、団体で構成される地域に根ざした組織であり、人材不足が課題

イ 地域運営組織の持続的発展に向けた課題

- ①法人化：会員の資格要件（メンバーシップ）の地域限定、市町村の法人設立関与等による地域代表制の付与、持続的な運営確保のための収益事業の更なる拡大
- ②資金確保：使途の自由度が高い運営交付金制度の創設、指定管理制度の有効活用、ふるさと納税制度の活用
- ③人材確保・育成：若者の移住・定住をめぐる新たな動き（田園回帰）への対応、大学や企業などの一時的な滞在者の活用

3 成果と課題

豊重哲郎氏は、情熱と感動で人を動かす類まれな人材であり、地域づくりのリーダーには、相当の人間力と先見性が必要であると感じた。また、「やねだん」の取組は、地域運営組織の先進事例に当たるが、本県における地域運営組織の実態までは把握できなかった。コミュニティづくりとも深く関連すると思われるため、今後とも、制度の仕組みや内容、効果等について、情報収集に努めたい。

テーマ別 NPO ミニサロン

1 趣 旨

共通するテーマのもとに、地域の課題解決に貢献している県内の NPO が集い、交流及び意見交換を通じて、お互いに高め合うことを目的とする。

2 概 要 (全4回)

【第1回】

日 時：平成 28 年 9 月 16 日（金）13:30～15:30

会 場：ぽ・ぽ・ら

モデレーター：橋立 達夫（作新学院大学特任教授）

参加者：14 名（NPO、企業、行政等）

テーマ：農村と企業をつなぐ ～中山間地域の振興～

背 景 農村は、人口減による過疎化と高齢化による働き手の減少という大きな課題を抱えている。反面、農村には市街地とは異なる地域資源が豊富にある。

企業は、地域貢献が求められ、その活動が社会に広まることで企業イメージを高められる。地域貢献の中でも自然環境の保護等は、活動として人々に理解されやすいという側面がある。また、農に関わる NPO 等との関わりによって、従業員の心身の健康増進・維持が図れる、企業人としての資質の向上が図れる等の効果が得られる。ゆえに、農村と企業をつなぐ意義は大きく、そこに NPO が介在することで、県内の中山間地域の振興に寄与する可能性が見込まれるという着眼のもとにテーマを設定した。

展 開 ①栃木県の「中山間元気創出事業」について情報提供 ②（全体での意見交換）それぞれの NPO が、自身の活動について紹介し、課題や展望等を共有 ③（個々の意見交換）特に名刺交換しておきたい団体、個別に意見交換したい団体と交流 ④まとめ

総 括 農村のもっている潜在能力について、まだまだ、生かしきれていない。癒やしや憩いの場としての里山探索や農村体験等の動きが見られるが、なんともいっても農村の持つ教育力が一番の資源といえる。

地域の課題として、様々な地域資源をもちながら日常的に触れられるため、当たり前過ぎて活用しきれていない点がある。企業が、地域貢献ということで農村に足を踏み入れてくれれば、外の目が、その価値をあぶり出し、新しい発想を生むこともある。地域の NPO が、地域資源の再発見及び活用に関与するという視点で自団体の活動を見直すことは有効と思われる。また、外と内をつなぐ媒体として交流を深めていけば、そこに充実した企業連携が生まれる可能性も出てくる。農村と企業を結ぶ要となり得る。

【第2回】

日 時：平成 28 年 10 月 4 日（火）13:30～15:30

会 場：ぽ・ぽ・ら

モデレーター：三橋 伸夫（宇都宮大学教授）

参加者：18 名（NPO、企業、行政等）

テーマ：農村の資源を活かすグリーン・ツーリズム

背 景 農村の資源を活かすためにできることは多々ある。農村レストラン等もそのひとつであるが、それを含む複数の地域資源を巡る取組としてグリーン・ツーリズムがあげられる。農村の資源を複合的に味わうことができるという点で、外からの交流に大きな役割を果たす。また、外国からの誘客（インバウンド）や、長期滞在、加えて人口流入といった効果も考えられることから、栃木県でも力を入れている事業であり、NPO にとっても大きな関心事である。

展 開 ①すでに、農村誘客を実施している 2 団体（NPO 法人 くまの木里の暮らし、一般社団法人 里山大木須を愛する会）の事例紹介 ②（全体での意見交換）グリーン・ツーリズムの 7 つの要素→観る・買う・食べる・遊ぶ・学ぶ・農体験・泊まる（栃木県グリーン・ツーリズムネットワークパンフレットより）について、意見交換 ③（個々の意見交換）団体の特色や発表者の思いや関心、また、課題や展望等について、さらに理解を深める意見交換と交流 ④まとめ



総括 グリーン・ツーリズムの7つの要素について、「宿泊」は実施のハードルが高いが、個々の団体の得意とする要素、気軽に取り組める要素をつなぎ合わせて、ネットワークとして機能できると、NPOの体力を高め全体を盛り上げていくことになる。

グリーン・ツーリズム事業の実施に当たっては、スタッフの確保や経営等、NPOの課題は大きい。また、首都圏への広報やマーケティング等を個別NPOが実施するのは容易でない。行政との協働で、県内NPOがもっている資源を最大限に活用できるような仕組みが定着すれば、NPOが新規参入する動機付けになり得る。今後、NPO等のマネジメント力の高まりが期待される。

【第3回】

日時：平成28年10月27日（木）13:30～16:00

会場：ぽ・ぽ・ら→昭和こども食堂

モデレーター：石原 栄子（作新学院大学女子短期大学部名誉教授）

参加者：12名（NPO、行政等）

テーマ：「こども食堂」から見える、こどもをめぐる環境



背景 社会課題として、「子どもの貧困」が大きく取り上げられている。そこには、「子どもへの教育力の低下」や「食事をとれない子」「食べるものはあるが孤食を強いられる」「子どもがくつろげる居場所」等、様々な課題が見え隠れしている。社会的な取り上げ方としては「子どもの貧困」を起点に「子ども食堂」を考える場が主流のようである。ここでは、県内各地に立ち上がってきている「子ども食堂」の活動者から、どのような意識で立ち上げたかという経緯を聞き、そこから見える「こどもをめぐる環境」をテーマとした。

展開 ①県内で初めて上三川町の地域有志が立ち上げた「MAKANA こども食堂」と、宇都宮市にある一般社団法人若年者支援機構が立ち上げた「昭和こども食堂」から、立上げの動機や意義、現状と課題等について報告 ②（全体での意見交換）「子ども食堂」についての思いや必要性、自身の活動等を発表 ③（個々の意見交換）「昭和こども食堂」の現場見学をし、個別の団体同士で理解を深める交流 ④まとめ

総括 「子どもの貧困」という大きな社会課題の後ろ側に、貧困家庭でなくとも「居場所のない子どもたち」、子どもばかりでなく「居場所を求める地域の人たち」、「地域貢献したいけれど何をしたらいいかわからず、さまよっている大人たち」等の現状が浮かび上がってきた。「子ども」を中心にそれらの課題を抱合して解決していくこの取組みは、地域の中でかけがえのない関係性を生み出し、かつ地域力の向上に寄与するものであることが実感された。この活動に巻き込まれたことで力を発揮してくれる人も現れ、子ども、大人ともに自己肯定感を高める事業であるが、継続運営にはまだまだ課題が多い。地域によっては、フードバンクと連携しているところもあり、地域の特色に応じ知恵を出し合っの運営が望まれる。

【第4回】

日時：平成28年11月18日（金）13:30～16:00

会場：ぽ・ぽ・ら→八幡山公園

モデレーター：西田 直樹（作新学院大学女子短期大学部教授）

参加者：7名（NPO、個人等）

テーマ：とちぎの歴史・文化を語り継ぐ ～次世代へつなぐピースパス～



背景 歴史や文化の継承といった課題は、重要であるにも関わらず、当然ながら、災害支援、過疎化や高齢化、農村の縮退、子どもの貧困等の後まわしになりがちである。NPOの中には、それをミッションとして、次世代に語り継ぐ活動をしている団体もある。その中で、NPO法人ピースうつのみやは、団体の名称変更をしてから、広報力が強化された印象があるため、活動発展の秘訣を探るとともに歴史・文化を語り継ぐ意義をお互いに認識するべくこのテーマを掲げた。

展開 ①NPO法人ピースうつのみやの活動概要報告 ②（全体での意見交換）それぞれの活動概要を発表しながら、その意義について考えていく ③（個々の意見交換）「八幡山公園」に出向き、歴史の現場見学をしながら相互理解を深める交流 ④まとめ

総括 歴史や文化に関わりのある資源が、生活の場に埋もれ、認識しにくいという課題がある。NPOが、地域のお宝発見等の事業を仕掛けることで、眠っていた（認識していなかった）歴史・文化に光を当てる

ことができる。それは、地域愛につながり、護ろうという動きにもなっていく。また、他地域との交流にも発展し、「ふるさとの誇り・心の支え・地域の元気」につながっていく点でも意義がある。

3 成果と課題

本事業は、NPO からの要望を受けて企画した。各回のモデレーターを大学教授が担当し、成長のための知識や情報が提供されているため、和やかな雰囲気の中での「情報交換・交流」を通じて、「お互いに高めあえる」刺激もあり、学びもあった。「もっと時間がほしい」という意見があった。

第1回「農村と企業をつなぐ ～中山間地域の振興～」では、栃木県の「中山間元気創出事業」についての最新情報を得た。意見交換と交流から、それぞれのNPOが自団体の活動の価値を再認識し、地域と企業をつなぐ媒体としての存在価値に改めて目を向けることとなった。

参加者からは「それぞれの地域で実態を踏まえ何に取り組むか、一人ひとりの方の強い意志を学ばせていただいた。出来ないでなく、何が出来るかをしっかり考えて行きたい」という声ばかりでなく「論点をしぼり方向性を出すような場にしてほしい」、「企業とのマッチングを進めて」という声もあり、後者については、テーマに対する期待の大きさ及び参加の動機と、本事業の趣旨とがかみ合わなかったようだ。

第2回「農村の資源を活かすグリーン・ツーリズム」では、事例への感想と自己紹介を交えた意見交換を通じ、団体の特色や発表者の思いや関心、また、課題や展望等についての相互理解が図られた。農村の資源を活かす活動をもっている、まだまだ目指すところとのギャップなどへの気づきもあり、それを次へのステップにつなげることが期待される。「ネットワーク構築のためには、このようなサロンが必要。このような機会を継続してほしい」や「話を聞いていて、自分も頑張ろうと思った。参考となる団体と連絡を取ってノウハウを聞く予定」などの声があり、本事業のねらいに合致した結果が得られた。

第3回「『こども食堂』から見える、こどもをめぐる環境」では、子ども食堂に関心のある参加者が、すでに活動を始めた団体の実践例に触れることができ、学び、目標を得ることができた。こどもをめぐる環境が時代とともに変遷しつつあることを再認識し、未来をみつめて活動していく大人の存在がいかに大切かを共有した。また、「昭和こども食堂」を見学し、今後に向けての活動意欲を高めた。参加者の声では、「こども食堂が単純な児童福祉の問題ではないということを学んだ」、「広い視野を持って、こども食堂のことを学び続けて、地域の絆づくりの一つとして考えていきたい」等があった。

第4回「とちぎの歴史・文化を語り継ぐ ～次世代へつなぐピースバス～」では、室内で意見交換した後、NPO 法人ピースうつのみやのガイドで宇都宮市八幡山公園に出かけ、まちあるきを通じた歴史・文化の語り継ぎを体感することができた。自分たちの取組は地道な活動ではあるが、まちづくりという側面があることに気づかされ、活動意欲の高まりにつながった。参加者の声は、「皆さん、意欲的に活動されて大いに刺激になった」「もっと歴史に興味・関心をもちたい」等があった。

4 その他

平成27年度のテーマ別 NPO ミニサロンの成果（平成28年度に報告を得たもの）

団体名	参加したテーマ	概要	成果
◆NPO 法人ワーカーズ・コリティア たすけあい大地	◆みんなの居場所づくり	◆NPO 法人グループたすけあいエプロンが、あたらしく設置した地域の居場所にて、運営のポイント等、意見交換・交流をした。	◆みんなの居場所カフェ「あおぞら」を7月26日にオープンした。
◆篠井地区ゆたかなまちづくり協議会	◆農がもつ三つの価値	◆農のもつ経済価値・環境価値・文化価値という側面から、自団体の活動をふりかえりつつ、意見交換交流をした。	◆これまで、出会ったことのない団体と知り合い、農作物を通じての交流が生まれた。
◆NPO 法人三区町地域資源・環境保全会	◆地域福祉の仕組みづくり～地域包括ケアに向けて～	◆地域福祉の仕組みづくりという課題に対し、市民の立場から、どのように考え、どのように関わればいいのか話し合った。	◆参加者同士で、何が出来るか話し合ったことがきっかけで、28年度に地域カフェ「円と縁」をスタートさせた。

とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら
平成 28 年度事業報告書

企画・編集：とちぎ協働デザインリーグ

発行：とちぎボランティアNPOセンター ぽ・ぽ・ら

〒320-0032 宇都宮市昭和 2-2-7

TEL : 028-623-3455

FAX : 028-623-3465

URL : <https://www.tochigi-vnpo.net>